

G. VERDI DON CARLO

YAMATO 5幕版

大和市文化創造拠点シリウス
やまと芸術文化ホール メインホール

2024.1.21 Sun
Open 12:45 Start 13:30

CAST & STAFF

【指揮】	糸原 裕介
【演出】	中津 邦仁
【フィリッポⅡ世】	デニス・ヴィシュニャ
【ドン・カルロ】	城 宏憲
【ロドリゴ】	森口 賢二
【エリザベッタ】	西本 真子
【エボリ公女】	丹呉 由利子
【大審問官】	志村 文彦
【修道士】	長谷部 浩士
【テバルド】	小林 英理子
【レルマ伯爵・王の先触れ】	富澤 祥行
【天の声】	大音 絵莉
【アレンベルグ伯爵夫人】	古志 祐華

【合唱指揮】 箕輪 健太

【管弦楽】 やまと国際フィルハーモニー管弦楽団

【合唱】 やまと国際オペラ協会合唱団

【バンド】 ユース・ウインド・オーケストラ

【バレエ】 大和シティー・バレエ

8/15～ チケット販売開始

シリウス チケットブース (10:00-18:00)

046-259-7591

カンフェティ (WEB&Tel)

0120-240-540 *通話料無料



プレミアムシート ¥12,000

SS席 ¥6,500 S席 ¥5,500

A席 ¥4,500 自由席 ¥3,500



やまと国際オペラ協会 <http://yioa.net>

大和市生涯学習振興補助金交付事業 / (公財)朝日新聞文化財団 芸術活動助成事業 / (公財)程ヶ谷基金助成事業

後援: 大和市 / 大和市教育委員会 / (公財)大和市スポーツ・よか・みどり財団 / (公財)大和市国際化協会

FM やまと 77.7MHz

「ドン・カルロ」のストーリーと見どころ

「太陽の沈まない国」と呼ばれた 1560 年頃のスペインは、カトリック教会をバックに絶大な世界勢力となり、異教徒に対しても弾圧を加えていた。こうした時代背景の中で、史実に残る人物を主体に、オリジナルのストーリーが展開する。

スペイン国王フィリッポ二世の息子カルロは、許嫁であるフランスの王女エリザベッタを一目見るために、パリの郊外、フォンテンブローを訪れる。そこへ、エリザベッタが現れ、戦争で仕事を失い路頭に迷う木こり達や夫を亡くし乳飲み子を抱えた女達、貧困に苦しんでいる民衆を元気づける。カルロとエリザベッタが、互いが運命の相手と知り、神が与えてくれた愛に歓喜し、未来を信じた矢先、使者がやってきて、エリザベッタが正式にスペイン国王と婚約したことが告げられた。愛するエリザベッタが、父の妻になる…カルロは、絶望の淵に突き落とされ、1幕が閉じる。この冒頭の木こり達の合唱は、ドン・カルロ初演(1867)でも、長すぎてゲネプロでカットされた、幻の名作の1つで、今回これを再現し、魅力を伝える。

エリザベッタへの想いを断ち切れず一人悩むカルロは、一方、スペインの圧政に苦しむ、フランドル地方(今のオランダ辺り)の新教徒を救おうとしており、宗教上も国王である父親と対立している。エリザベッタへの想いを断ち切れずに悩むカルロは、友人であるポーザ卿ロドリゴに、自分の想いを打ち明けるが、ロドリゴは、「母を愛するのは罪。そのことは我々の心の中にしまっておいて、今はスペインの圧政に苦しむフランドル地方の新教徒の人々を共に救おう」とカルロを諷める。カルロは、ロドリゴとの友情を選び、フランドルを救うために力を尽くすことを誓う。この二重唱のテーマは、随所に出てくる「友情」を示す有名な旋律で、これを聴いて「ドン・カルロ」の愛好者になった方は多いだろう。

自他ともに認める美貌のスペイン宮廷の大貴族メンドーサのエボリ公女は、カルロに思いを寄せていた。戴冠式の前夜祭として開かれた、王妃のための仮面舞踏会の夜、王妃と戯れ、衣装を交換したエボリは、束の間の王妃気分で、このままカルロを誘惑しようと思いつく。暗がりの中、カルロは、エリザベッタと間違えてエボリに想いを告げてしまうが、事実を知ったエボリは怒りを爆発させ、腹癒せにエリザベッタの大切にしていた宝宝箱を盗んで国王に渡してしまう。そこにはカルロの肖像画が入っていた。カルロへの気持ちを抑え、王妃としての義務を果たそうと貞節を守るエリザベッタとそれを疑う国王フィリッポとの溝はさらに深まる。絶大な権力を持つスペインの王であるにもかかわらず、妻のエリザベッタは、今まで一度も自分を愛したことはないと憂えて歌う。チェロのソロが王の心の内を示すかのように孤独感を表現したアリアが切なく響く。

さらに王の苦悩は続く。異端者に加担した息子もこのままでは反逆罪として処刑せざるをえない。この状況を回避できないかと大審問官に訴えかけるが、大審問官は、神の意思は絶対であり、異端者に加担した王子のみならず、腹心の家臣ロドリゴをも撃つと命じる。宗教権力者である大審問官に従わざるをえない王の苦悩は増すばかりだった。王と大審問官の重厚なバスの二重唱は、スペインの王と神の代弁者の二重権力のぶつかり合いを余すところなく表している。

これらの人物像の、心の内面を巧みに表現した、ヴェルディの音楽の最高峰「ドン・カルロ」。ヴェルディファンなら、壮大なセレモニーを描く大規模な音楽で、圧倒される迫りに魅力を感じる人も多いだろう。国王の戴冠を祝う式典では、異端者の火刑が挙行され、20人にも及ぶ華々しいファンファーレ、民衆の歓喜、修道士達の祈り、フランドルの使節団による陳情などが、スケールの大きさを感じさせるクライマックスを彩る。さらに、仮面舞踏会の場面では、エリザベッタを称えるバレエ「ラ・ペレグリーナ」が、初演時に存在したが、1883年以降姿を消した。今回の制作では、この隠れた名曲を再現し、新しいバレエ作品とした。様々な特徴に光を当てて描く一大スペクタクル！ヴェルディが、1866年初稿版から20年試行し到達した、最終稿5幕モダン版。さらに、最も古い初稿の魅力との融合で織りなす、比類なき転身。今、時代を超え、最も新しい「YAMATO 5 幕版」が、サステナブルな世界に蘇る！



指揮
桑原 裕介



演出
中津 邦仁



フィリッポ二世
Denys Vyshnia



ドン・カルロ
城 宏憲



ロドリゴ
森口 賢二



エリザベッタ
西本 真子



エボリ公女
丹呉 由利子



テバルド
小林英理子



大審問官
志村 文彦



修道士
長谷部浩士



レルマ伯爵
富澤 祥行



天の声
大音 絵莉



大和シティー・バレエ

やまと国際フィルハーモニー管弦楽団
大和シティー・バレエ

やまと国際オペラ協会合唱団
ユース・ウィンド・オーケストラ



やまと国際オペラ協会
info@yioa.net 046-272-1885
http://yioa.net

